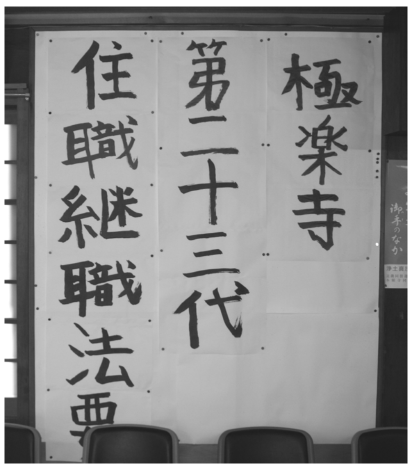
極楽寺だより

法要
特別号

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要
第二十三代住職継職法要
五月四日・五日



本堂に掲示されましたこの字は、極楽寺次男宏哉が書いてくれたものです。

皆様のおかげをもちまして、心に残る法要を勤めることができました。本当に有り難うございました。

天候にも恵まれて、盛大で温かい法要を勤めることができました。たくさんの方がお参り下さり、お手伝い下さり、感謝、感動でいっぱいです。本当に有り難うございました。感動のあまり、挨拶の時には不覚にもウルウルしてしまい、しかもそれを写真やビデオに録られてしまいました。あぁ、恥ずかしい・・。でも、それだけうれしかったんです。

今回の『極楽寺だより』は、「法要特別号」と題しまして、法要の様子や裏話をご紹介したいと思います。紙面の都合上、一部しか紹介できないのが、本当に残念です。　— 新住職 —

◇ 組長さんより、住職任命の許状を伝達していただきました。

本願寺よりいただきました住職任命の許状を、皆様の前で大津東組（旧長門市、三隅町の真宗寺院の集まり）組長より、伝達していただきました。これで、晴れて住職ということなのですが、まだまだ未熟者です。どうぞ皆様、ビシビシとご指導下さい。

◇ 前住職は、元気に復活いたしました！

体調を崩して、二日目の法要に出勤できなかった前住職ですが、おかげさまですっかり体調もよくなりました。ご心配をおかけしました。二日目の法要で影武者を勤めてくれました前住職の兄（当年とって94歳！まだまだ元気です）も、ホッとしておりました。

前住職の兄が、影武者を勤めてくれました。

お坊さんだらけの控室

◇ 二日間で、延べ64人のお坊さん！

法要には、二日間で延べ６４人のお坊さんが出勤されました。お勤めをされる方、雅楽の演奏者、裏で法要を仕切る方。遠くは、仙台から駆けつけてくれた友人もいました。普通は、お坊さんを見かけても、せいぜい二人か三人くらいでしょう。こんなにたくさんのお坊さんを見ることができることは、なかなかありません。

◇ 極楽寺アーカイブス 大好評！

〝昔懐かしい写真〟を引き伸ばし、本堂に掲示しています「極楽寺アーカイブス」。今回の法要では、参道の両側にコンパネ板12枚を設置して約１５０枚の写真を掲示しました。大好評！たくさんの方が見に来て下さいました。

◇ 盛大な稚児行列！

初日は、野波瀬 宮崎茂之さん宅を稚児宿として、稚児５０名の参加。二日目は豊原 小林　明さん宅を稚児宿として、稚児３０名の参加。楽人の先導のもと、両日共に、保護者や関係者を含めると１００名以上の盛大な稚児行列となりました。野波瀬だけではなく、豊原の行列にも多くの方が見に来て下さり、華やかなものとなりました。

◇ こだわりました！ パンフレット。

今回の法要パンフレットには、前住職が思い入れを込めて、９ページにわたり「極楽寺の由来と歴史」を書き上げました。レイアウトはすべて新住職。もちろん封筒も、極楽寺だよりエッセイ集『オシエノカケラ』も、デザインから内容に至るまでこだわりの一品となっています。是非じっくりとお読み下さい。お手元にまで届いていない方があれば、お気軽にお寺までお申し込み下さい。在庫はまだまだあります。

◇ 本堂に舞い散る華葩（けは）！ 子ども散華隊（さんげたい）も大活躍。

法要の作法に、「散華」というものがあります。紙でできた花びら「華葩」をまいて、お浄土の様子をあらわすものですが、今回は特製の華葩を用意しました。薄いもの、厚いもの、中くらいのものを組み合わせることで、本堂に華葩が舞い散るよう工夫しました。また、〝子ども散華隊〟の小学生・中学生たちも一緒にまいてくれたことで、一段と華やかになりました。

◇ たくさんのお参りに大感激！ ようこそ、お参りになられました。

どんなに準備を頑張っても、本堂がガラ〜ンとしていたら寂しいものです。今回は、たくさんの方がお参りして下さいました。本当にうれしく、有り難いことです。ご法話のときに本堂が満堂になったことが、何よりの喜びです。

◇ 充実のスタッフ！！！

今回の法要では、たくさんの方がスタッフとしてお手伝いして下さいました。仏教婦人会の皆さんは、仏具のお磨きや何千枚の華葩を組み合わせる作業（これがまた大変でした）、そして当日のお弁当作りまで。若婦人の皆さんは、接待全般を。総代、世話人の皆さんは受付や会計など当日の裏方を。仏教青年会を中心とした若手のメンバー20 数名が、特製の青いジャンバーを着て交通整理を。司会もご門徒の木村和子さんと松野圭子さんが。写真・ビデオの記録係は一日につき6名の方にお願いし、それぞれ大活躍でした。おかげで法要も順調にすすみました。本当に有り難うございました。

◇ コーラス！ 歌！ ギター演奏！ 雅楽バンドのライブ！ そして生ビール！

昼と夜の祝宴では、三隅地区の真宗門徒を中心とした合唱団〝ホワンシィコーラス〟の合唱や、豊原の新町雅昭さんのプロ顔負けの歌。これまたプロ並みの腕前、向山の水野文雄さんのギターと歌。新住職も一員である雅楽バンド〝インセンススティック〟のライブと、様々な催しが行われました。また、生ビールを用意したことで、出勤されたお寺さんたちも大喜び。大変盛り上がりました。コーラスやライブは、これからも夜の法座などで、ぜひ再演をお願いしたいと思っています。ご期待下さい。

また、ホワンシィコーラスの皆さんは、午後の法要でも活躍していただきました。法要中のお供物やお花のお供えを、コーラスの歌声にのせて行いました。普通は、テープで音楽を流すのですが、やはり生の歌声は雰囲気が違いました。

コーラスの歌声の中、お花やお供物がお供えされました。

◇ 立派なお花が、立てられられました。

毎年、御正忌報恩講に立派な立花が供えられますが、今回の法要でも同じ皆さんに、二日がかりでお花を立てていただきました。田植え時期と重なり忙しい中、花集めに悩まれたそうですが、おかげで内陣が一段とおごそかに荘厳されました。重岡幸作さん、野村昭一さん、岡村栄一さん、宮本　智さん、山本利晴さん、ご苦労をおかけしました。

◇ 梵鐘（ぼんしょう）、喚鐘（かんしょう）の撞木（しゅもく）が、そして本堂の大幕が新しくなりました。

新しい幕の前で、喚鐘の音が響きわたります

梵鐘を撞く、撞木が新しくなりました。撞木の取替えは、前住職の代替りのときに梵鐘が新調されて以来のこと。ですから、住職一代に一本ということになります。取替え用にと、長年本堂の床下に寝かせておいたシュロの木を、石川義文さん、寛季さん、岩本国久さん、松本和也さんが半日がかりで調整、釣り換えて下さいました。おかげで、鐘の響きも違います。今回の法要では、総代・世話人さんに撞いていただきましたが、いかがだったでしょうか。大晦日の除夜の鐘撞きを楽しみにして下さい。また、石川さんは喚鐘の撞木も新しくして下さいました。たたきやすく、跳ね返りも良いので、すごく気に入っています。

そして、本堂の大幕も仏教婦人会からのお祝いで新調させていただきました。これまでの大幕は、本堂屋根の大修復の際に新調されたもの。まだまだ使えますので、新調されたものと使い分けながら、大切にさせていただきます。

新しい撞木で、梵鐘が撞かれました

撞木の釣り替えだけではなく、アーカイブス掲示板製作等、ご尽力いただきました。

◇ 皆さん、本当にありがとうございました。素晴らしい法要を勤めることができました！！

※　法要の様子は、長門市ケーブルテレビ「ほっちゃニュース」投稿コーナーで放送されました。